

大阪市外国人住民アンケート調査報告書【概要版】

令和2年1月 大阪府・大阪市

■調査目的

今後の外国籍住民の円滑な受入れと共生社会づくりの推進に向けた対応策を検討するうえでの基礎資料とするため、外国人住民の生活実態や課題を把握する調査を実施する。

■調査方法

郵送による無記名式のアンケート調査（調査票を郵送し、後日記入済みの調査票を返送。）
調査票は日本語版（ルビつき）と、調査対象者の国籍を参照して選択した日本語以外の1言語（英語、中国語、韓国・朝鮮語、ベトナム語、フィリピン語）版の2種類を送付し、回答可能な言語で回答してもらった。

■調査対象

大阪市内在住の18歳以上の外国人の中から無作為に抽出された4,000人

■調査実施期間

令和元年10月15日～令和元年11月4日

■回収数

発送数：4,000件

到達数：3,916件（不着を除く）

回収数：626件

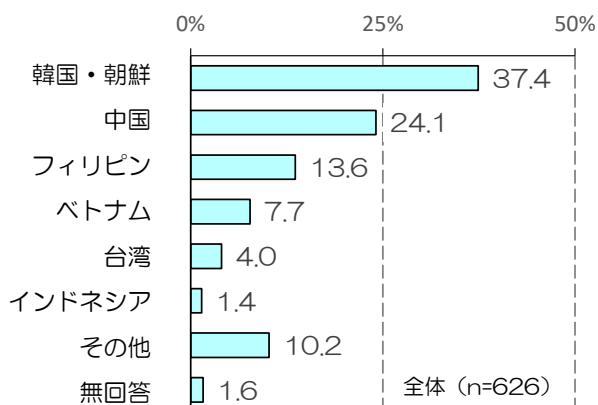
回収率（発送数を母数とする）：15.7%

（到達数を母数とする）：16.0%

回答者の属性

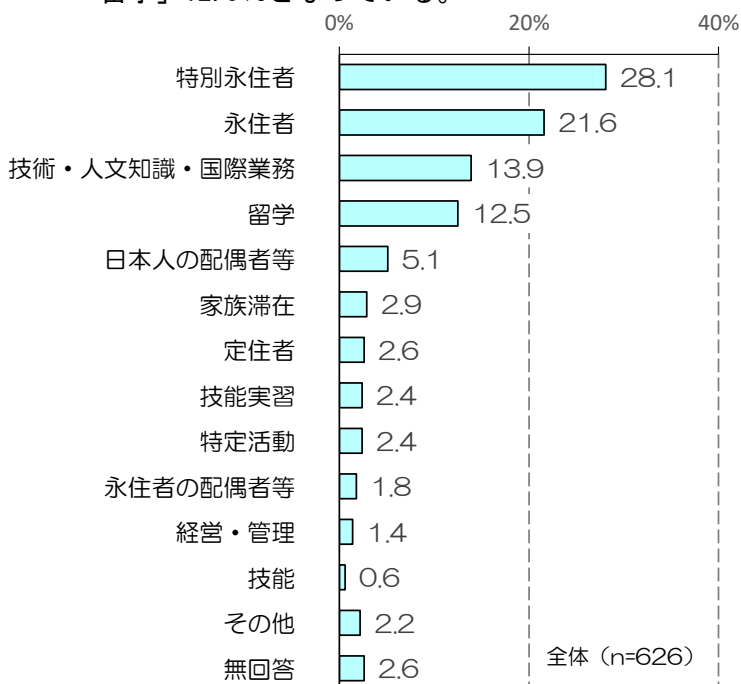
（1）国籍（地域）

「韓国・朝鮮」が37.4%で最も多く、次いで、「中国」が24.1%、「フィリピン」が13.6%、「ベトナム」が7.7%となっている。



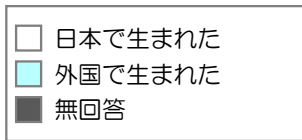
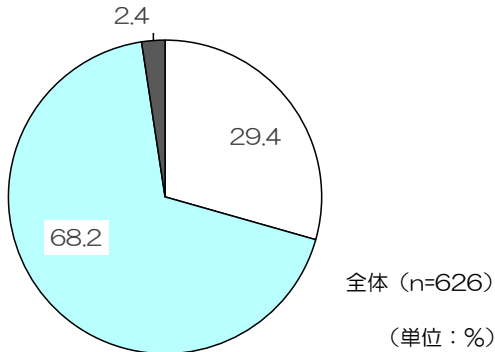
（2）在留資格

在留資格は、「特別永住者」28.1%、「永住者」21.6%、「技術・人文知識・国際業務」13.9%、「留学」12.5%となっている。



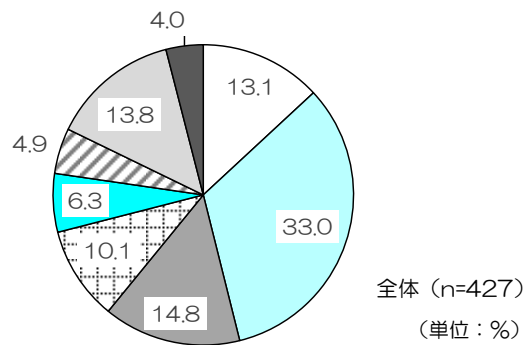
(3) 出生地

「日本で生まれた」が29.4%、
「外国で生まれた」が68.2%。



(4) 外国で生まれた人の日本在住年数

「1~5年」が33.0%と最も多い。以下、「6~10年」(14.8%)、「25年以上」(13.8%)、「1年より短い」(13.1%)と続いている。

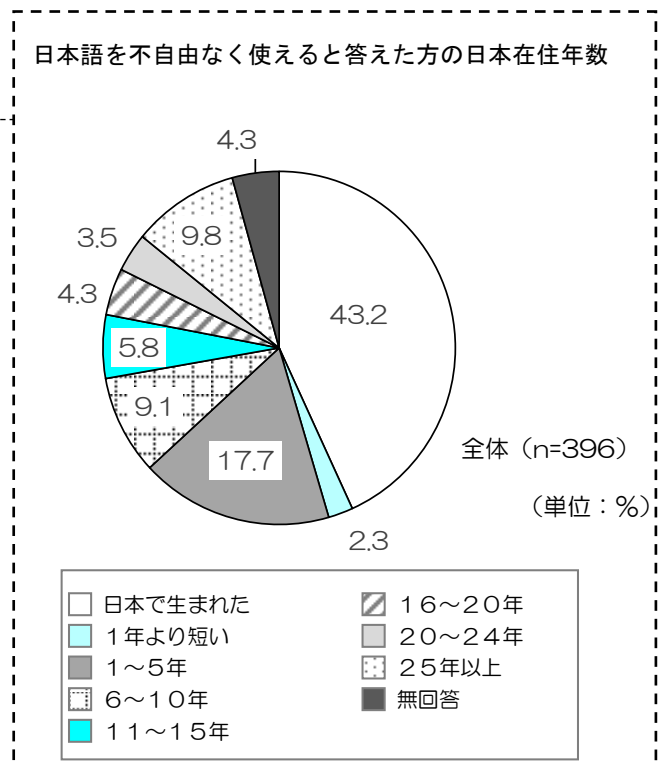
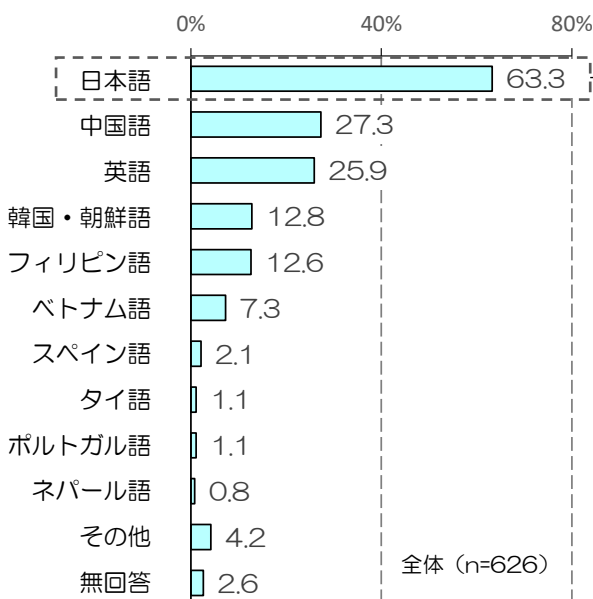


(5) 日本語能力

①不自由なく使うことができる言語 (複数回答)

「日本語」をあげた人は63.3%であった。その他の言語としては、「中国語」が27.3%、「英語」が25.9%と多い。「韓国・朝鮮語」、「フィリピン語」も1割強みられる。

「日本語」を不自由なく使えると答えた方の日本在住年数をみると、「日本で生まれた」が43.2%と最も多い。以下、「1~5年」(17.7%)、「25年以上」(9.8%)、「6~10年」(9.1%)と続いている。



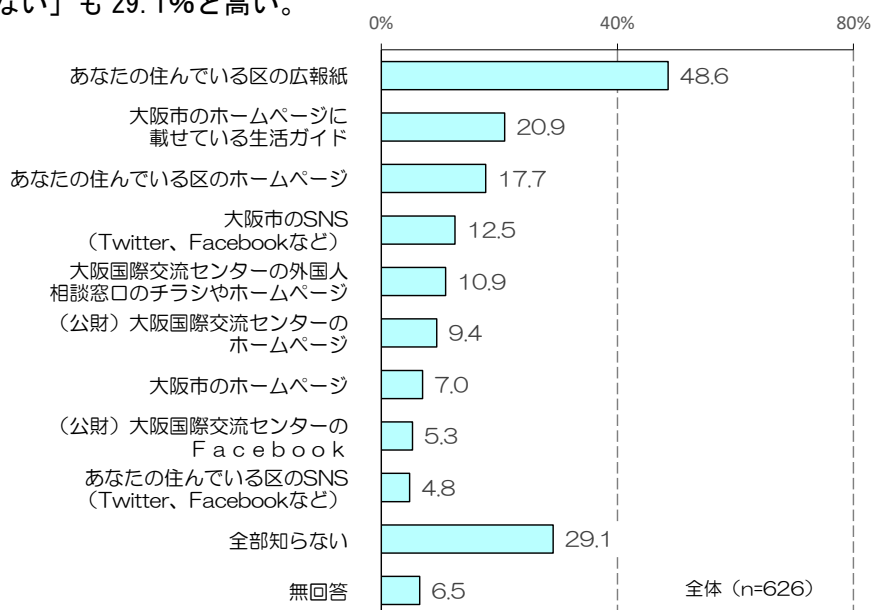
②日本語を「聞く」・「話す」・「読む」・「書く」能力

「日本語」を不自由なく使えると答えた人以外の日本語能力は、「聞く」「話す」能力では半数以上が日常会話レベル、「読む・わかる」「書く」能力では約半数が「ひらがなとカタカナと簡単な漢字」の読み書きができるレベルとなっている。

1. 普段の生活について

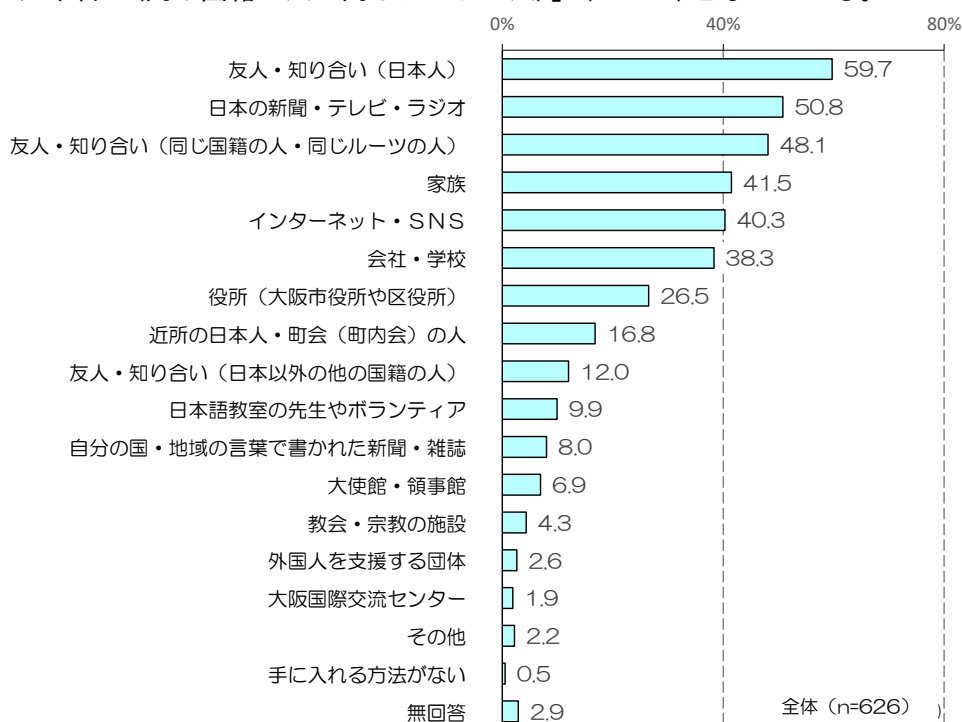
(1) 役所の案内やお知らせの認知度（複数回答）

「あなたの住んでいる区の広報紙」が48.6%で最も高く、次いで「大阪市のホームページに掲載している生活ガイド」(20.9%)、「あなたの住んでいる区のホームページ」(17.7%)があがっている。一方、「全部知らない」も29.1%と高い。



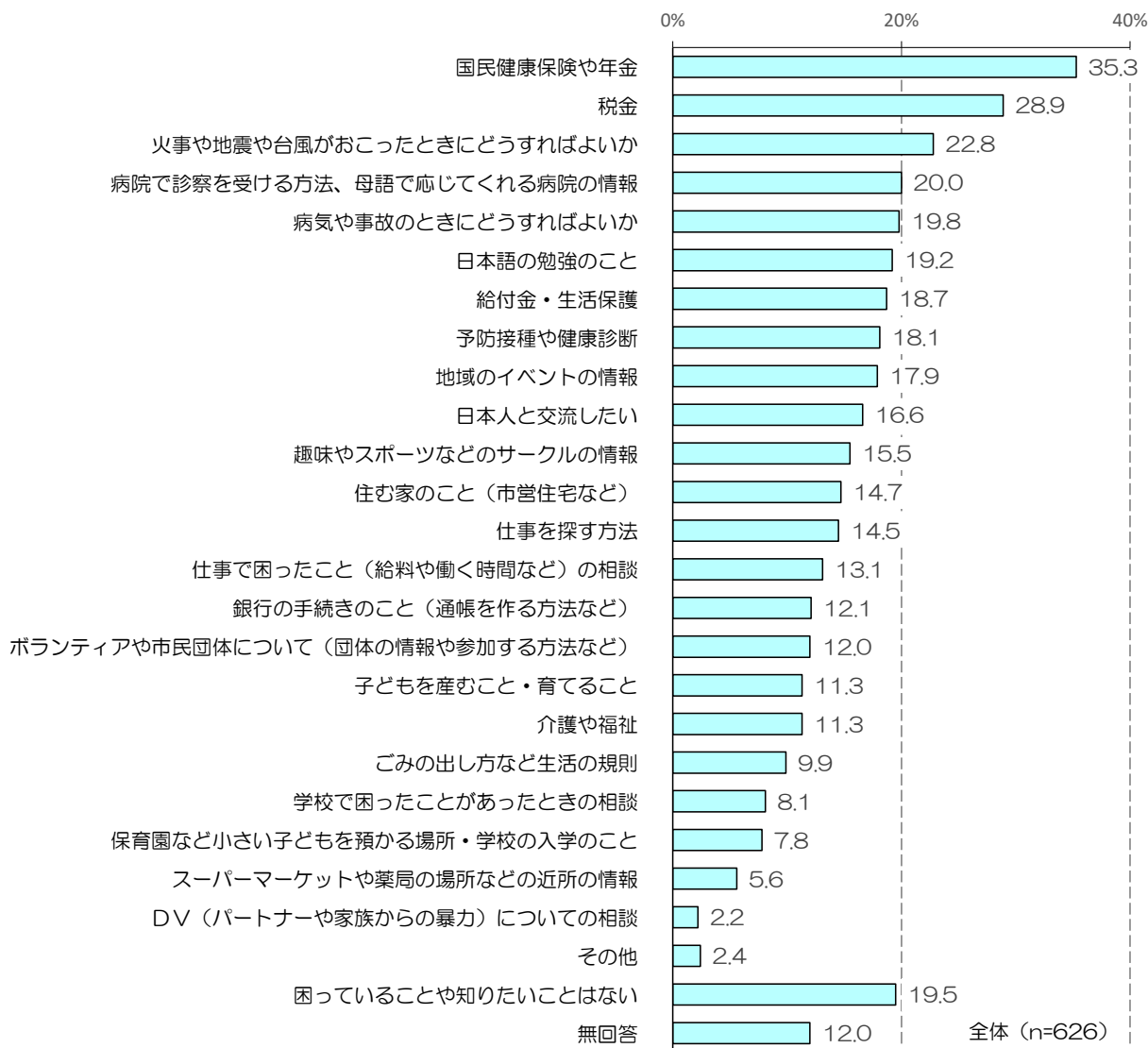
(2) 生活に関する情報源（複数回答）

「友人・知り合い(日本人)」(59.7%)が最も多く、次いで、「日本の新聞・テレビ・ラジオ」(50.8%)、「友人・知り合い(同じ国籍の人・同じルーツの人)」(48.1%)となっている。



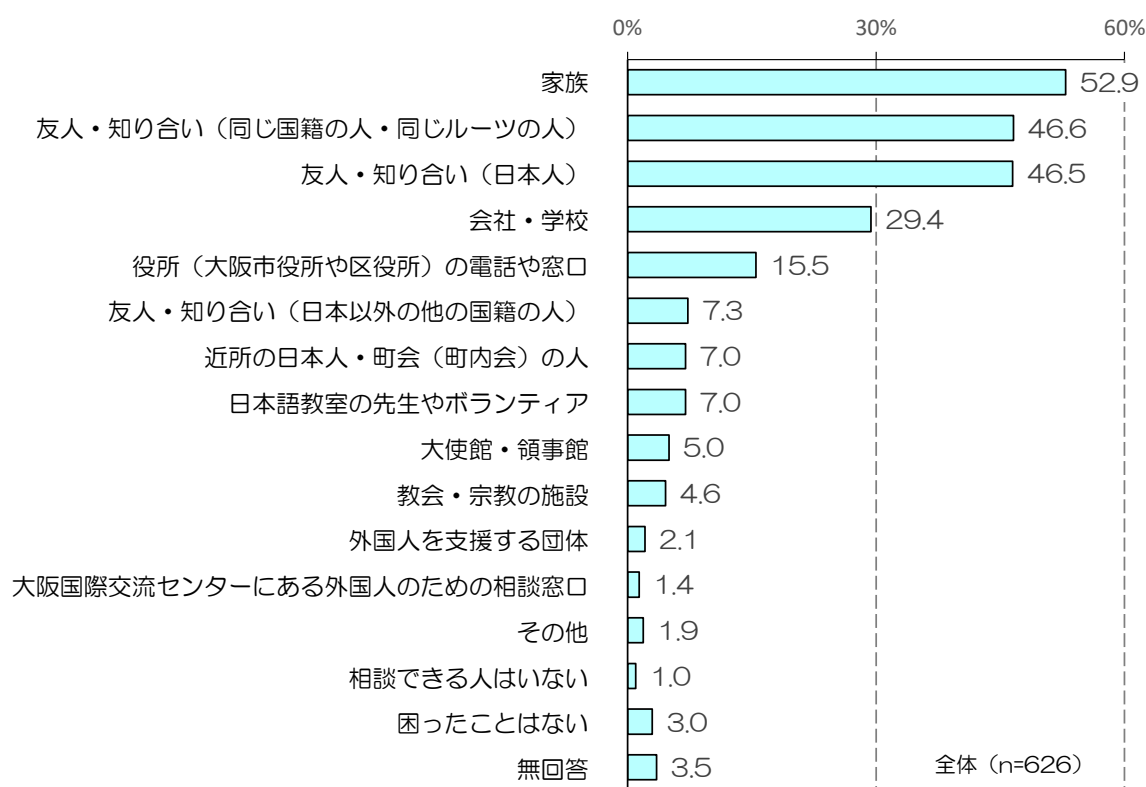
(3) 生活での困りごとや知りたい情報（複数回答）

「国民健康保険や年金」(35.3%)、「税金」(28.9%)といった社会保障等に係る項目が上位で、次いで「火事や地震や台風がおこったときにどうすればよいか」(22.8%)、「病院で診察を受ける方法、母語で応じてくれる病院の情報」(20.0%)、「病気や事故のときにどうすればよいか」(19.8%)といった緊急時の対応に係る項目があがっている。



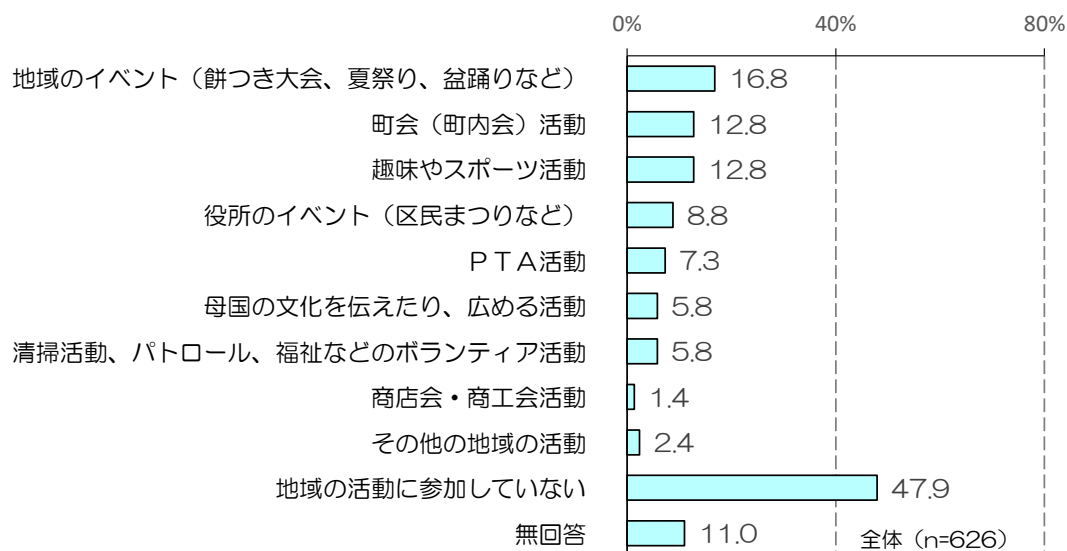
(4) 困りごとの相談相手（複数回答）

「家族」が52.9%で最も高く、次いで「友人・知り合い(同じ国籍の人・同じルーツの人)」(46.6%)、「友人・知り合い(日本人)」(46.5%)、「会社・学校」(29.4%)となっている。



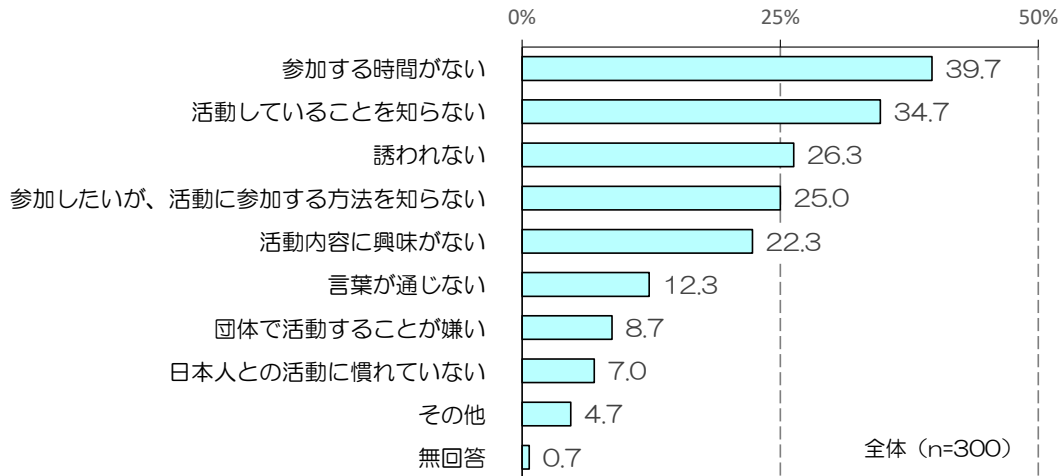
(5) 地域の団体の活動やイベントへの参加状況（複数回答）

「地域の活動に参加していない」が47.9%と半数近くを占め、各活動への参加率も2割に満たない。活動内容でみると、「地域のイベント(餅つき大会、夏祭り、盆踊りなど)」が16.8%で最も高く、次いで「町会(町内会)活動」「趣味やスポーツ活動」がともに12.8%となっている。



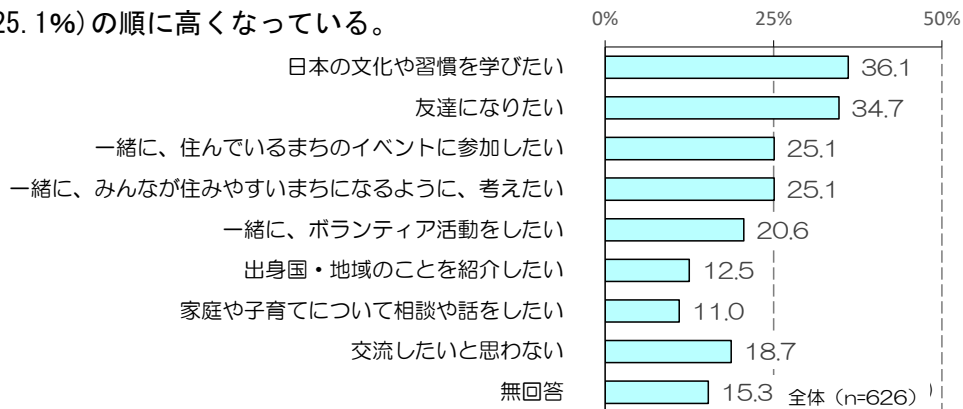
(6) 地域の活動に参加していない理由（複数回答）

「参加する時間がない」(39.7%)、「活動していることを知らない」(34.7%)、「誘われない」(26.3%)、「参加したいが、活動に参加する方法を知らない」(25.0%)の順に高くなっている。



(7) 地域での活動・交流意向（複数回答）

「日本の文化や習慣を学びたい」(36.1%)、「友達になりたい」(34.7%)、「一緒に、住んでいるまちのイベントに参加したい」「一緒に、みんなが住みやすいまちになるように、考えたい」(ともに25.1%)の順に高くなっている。



2. 住まいと防災について

(1) 住まい

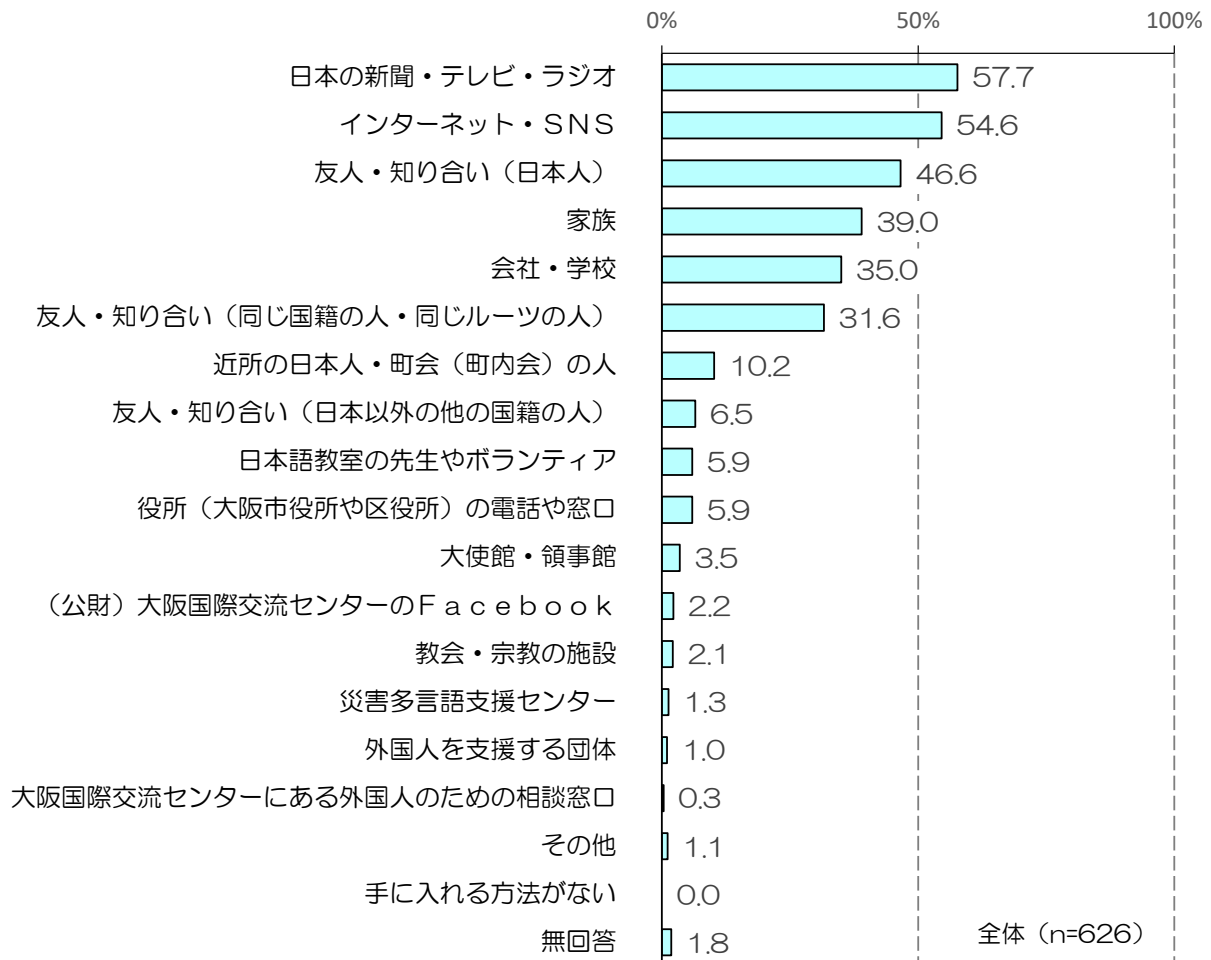
居住形態は「賃貸住宅」が50.8%と約半数を占め、次いで「持ち家」が30.0%、「会社や学校が用意したマンションやアパート」が8.6%となっている。

家探しをしたことがある人のうち、家を探した方法は、「外国語が話せる業者以外の日本の不動産業者で探した」が56.7%と特に高い。次いで、「家族や知り合いや友達が探してくれた」(25.3%)、「外国語が話せる日本の不動産業者で探した」(22.4%)となっている。

また、家を探したときの経験で困ったことは、「家賃が高くて、住みたい家に住むことができなかった」が54.7%と最も高い。「日本人の保証人がいないので入居を断られた」「公営住宅に申し込む方法がわからなかった」でともに40.0%、次いで、「外国人なので入居を断られた」で34.3%となっている。

(2) 災害に関する情報源（複数回答）

「日本の新聞・テレビ・ラジオ」(57.7%)、「インターネット・SNS」(54.6%)が上位となっている。次いで、「友人・知り合い(日本人)」(46.6%)、「家族」(39.0%)、「会社・学校」(35.0%)、「友人・知り合い(同じ国籍の人・同じルーツの人)」(31.6%)といった身近な人があがっている。



3. 医療・保険・福祉について

(1) 病気になったときの経験

「病院で払ったお金が高かった」(23.3%)、「医者の話す言葉がわからなかった」(20.4%)と高い。



(2) 健康保険・年金の加入状況

健康保険の加入状況は、93.0%が何らかの健康保険に加入しており、「仕事先の健康保険」が45.4%、「国民健康保険」が43.8%となっている。

年金の加入状況は、72.4%が何らかの年金に加入しており、「仕事先の年金」が46.7%で最も多く、「国民年金」が23.7%で続いている。「入っていない」も22.2%みられた。

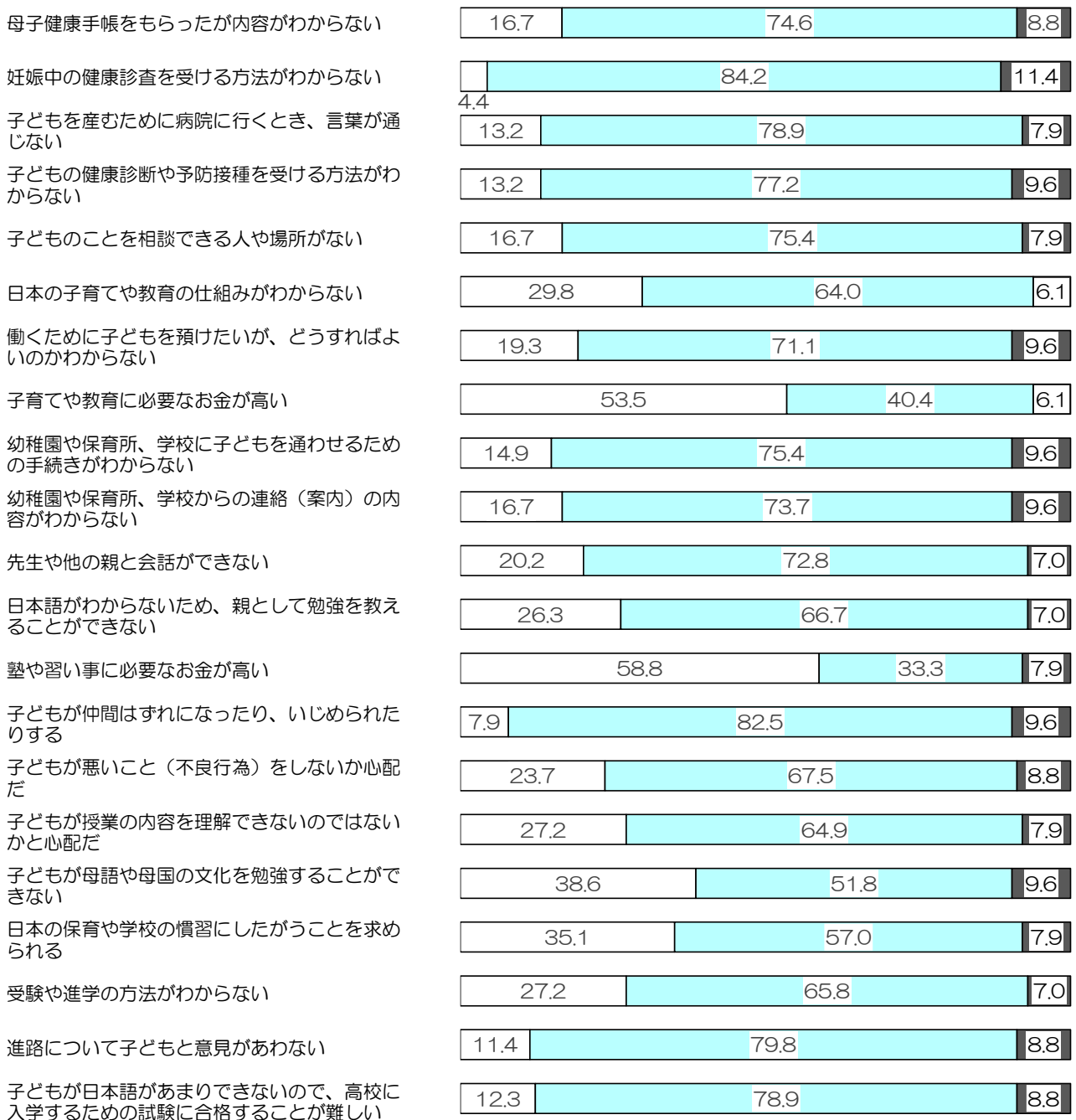
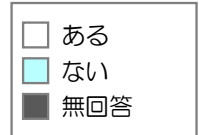
(3) 介護の状況

介護をしたり、介護を受けたことが「ある」と回答した割合は13.3%、「ない」は76.8%となっている。

介護をしたり、介護を受けたことが「ある」と回答した人のうち、介護に関して困ったことは「介護に必要なお金が高い」で26.5%、「介護保険制度が分からない」で20.5%、「近くに利用できる介護の施設が足りない」で14.5%となっている。

4. 出産・子育て・教育について

子育て等に関して心配・困りごとが「ある」と回答した割合は、「塾や習い事に必要なお金が高い」で 58.8%、「子育てや教育に必要なお金が高い」で 53.5%と、お金に関する項目で高い。次いで、「子どもが母語や母国の文化を勉強することができない」「日本の保育や学校の慣習にしたがうことを求められる」といった文化・慣習に関する項目で3割以上となっている。



(n=114)

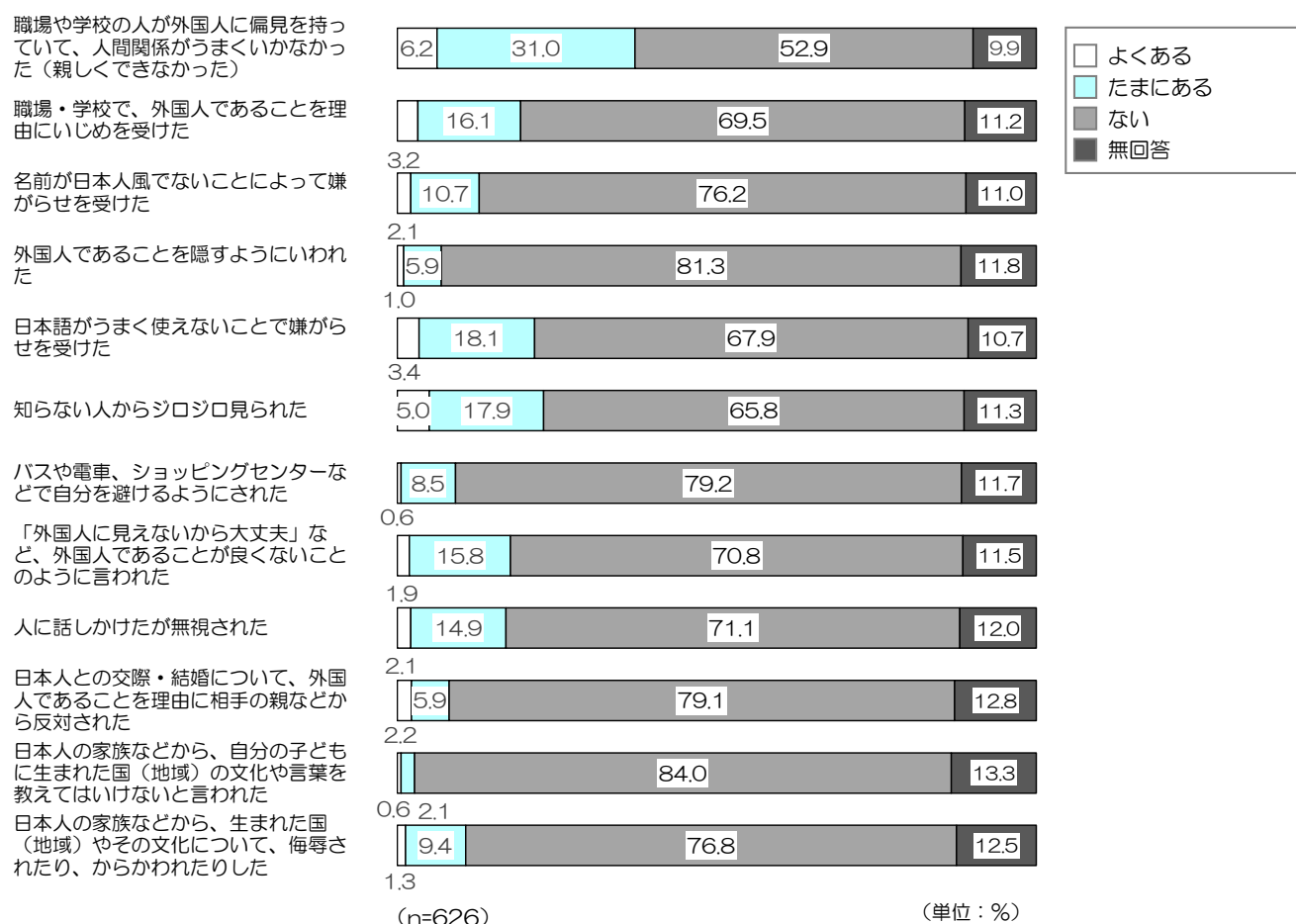
(単位：%)

5. 差別的な言動について

(1) 過去5年間の差別的な言動の経験

「よくある」と回答した割合は「職場や学校の人が外国人に偏見を持っていて、人間関係がうまくいかなかった(親しくできなかった)」で6.2%、「知らない人からジロジロ見られた」で5.0%と高い。

「よくある」及び「たまにある」と回答した割合を合わせると、「職場や学校の人が外国人に偏見を持っていて、人間関係がうまくいかなかった(親しくできなかった)」が37.2%で最も高い。「知らない人からジロジロ見られた」で22.9%、「日本語がうまく使えないことで嫌がらせを受けた」で21.5%と続く。



(2) 差別的な言動を見聞きした経験

「よくある」と回答した割合は「インターネットで見た」が9.9%で最も高く、「テレビ・新聞などで見た」(8.3%)、「直接見た」(6.7%)、「家族や知り合いなどから聞いた」(5.3%)となっている。

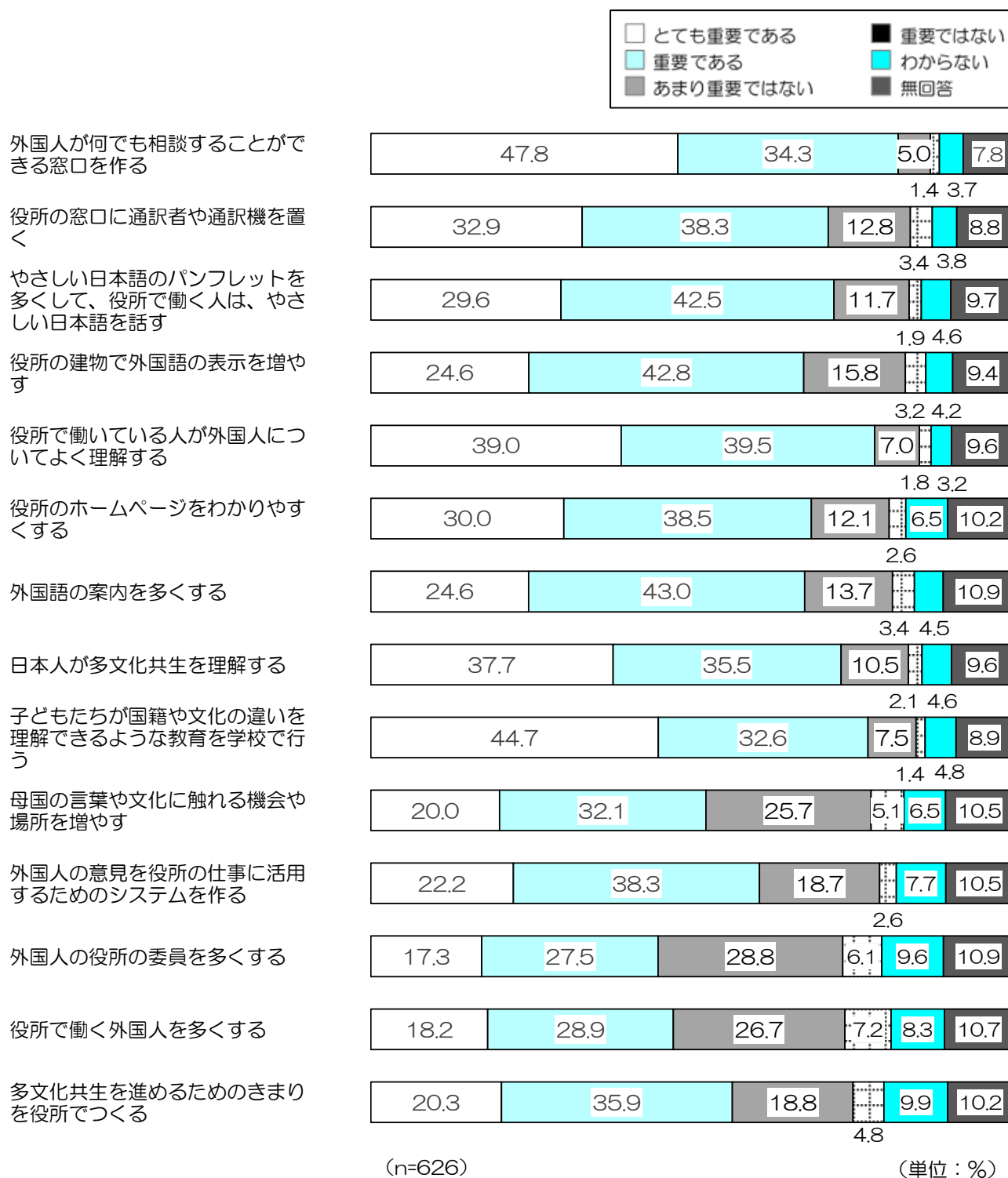
「よくある」及び「たまにある」と回答した割合を合わせると、「テレビ・新聞などで見た」が41.0%、「インターネットで見た」が40.4%と高くなっている。

(3) 差別的な言動を見聞きしたときに感じたこと

「不快に感じた」が41.2%で最も高く、次いで、「なぜそのようなことをするのか不思議に感じた」(29.6%)、「日本人や日本社会に対する見方が悪くなった」(17.7%)となっている。

(4) 多文化共生社会をつくるために重要だと思うこと

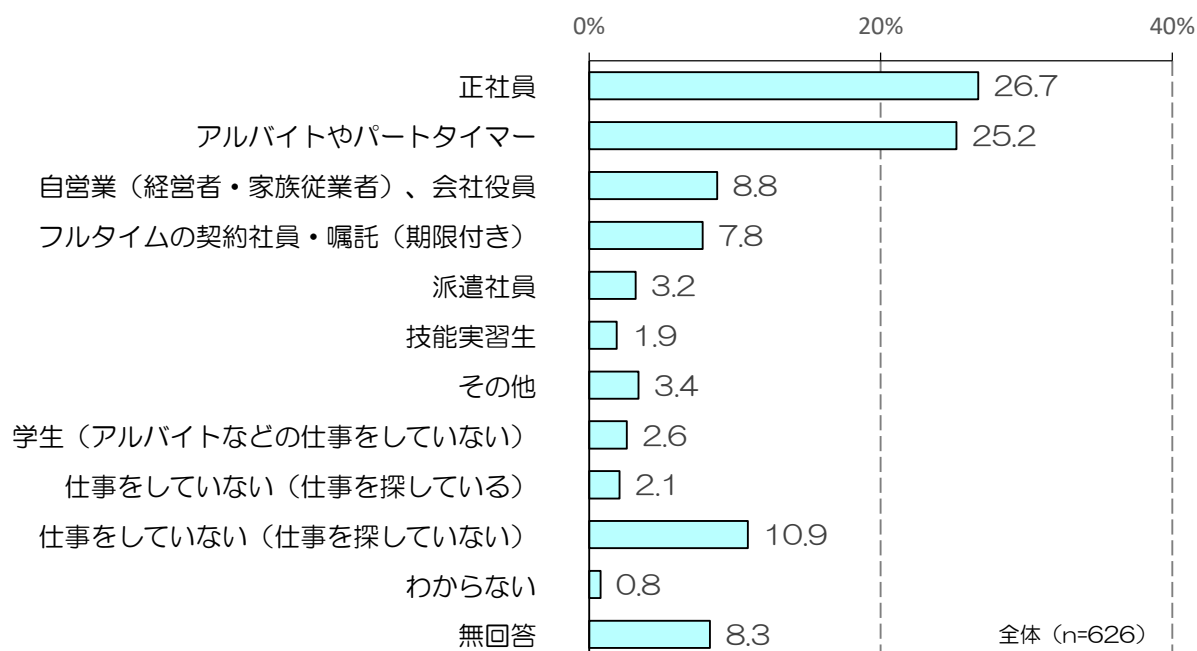
「とても重要である」は、「外国人がなんでも相談することができる窓口を作る」(47.8%)、「子どもたちが国籍や文化の違いを理解できるような教育を学校で行う」(44.7%)、「役所で働いている人が外国人についてよく理解する」(39.0%)、「日本人が多文化共生を理解する」(37.7%)の順となっている。



6. 仕事について

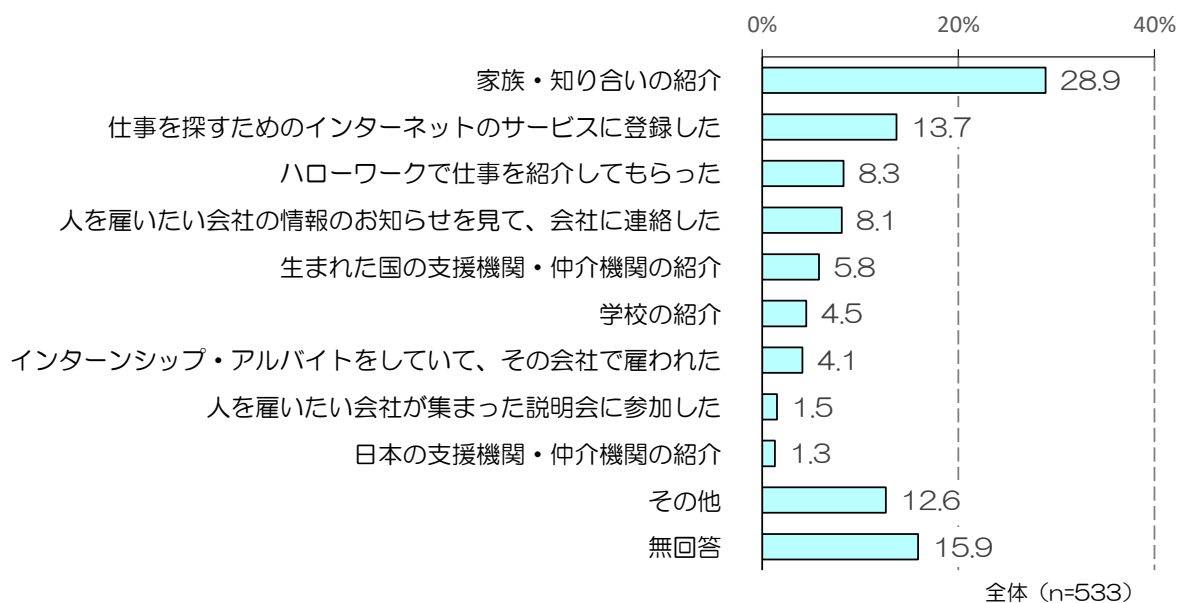
(1) 就労状況

「正社員」(26.7%)、「アルバイトやパートタイマー」(25.2%)が多い。「仕事をしていない(仕事を探していない)」が10.9%で続いている。



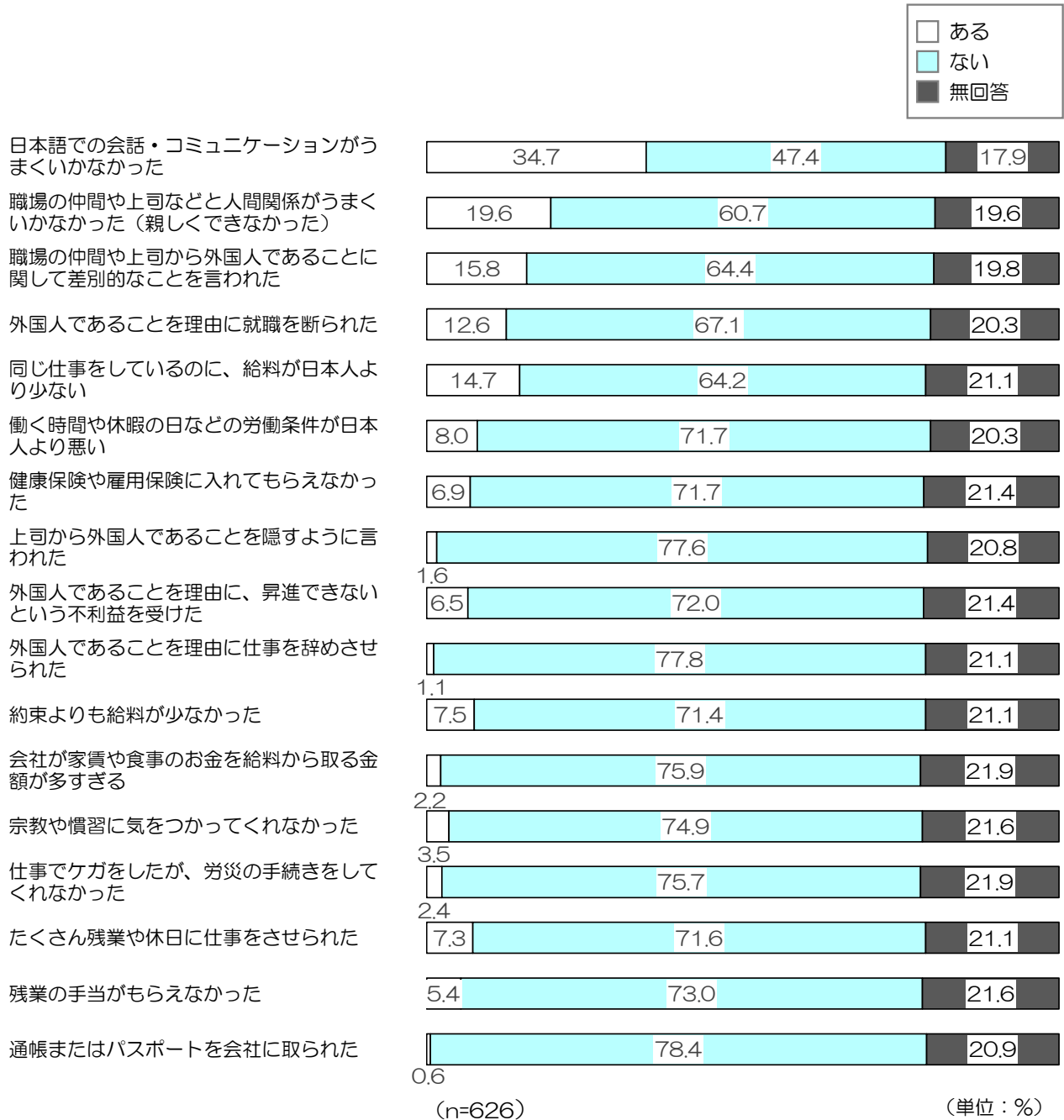
(2) 求職方法

「家族・知り合いの紹介」が28.9%で最も多く、次いで、「仕事を探すためのインターネットのサービスに登録した」が13.7%となっている。



(3) 仕事に関する過去5年間の経験

経験が「ある」と回答した割合は「日本語での会話・コミュニケーションがうまくいかなかった」で34.7%と最も高い。次いで、「職場の仲間や上司などと人間関係がうまくいかなかった(親しくできなかった)」「職場の仲間や上司から外国人であることに関して差別的なことを言われた」「同じ仕事をしているのに、給料が日本人より少ない」「外国人であることを理由に就職を断られた」の順に高くなっている。

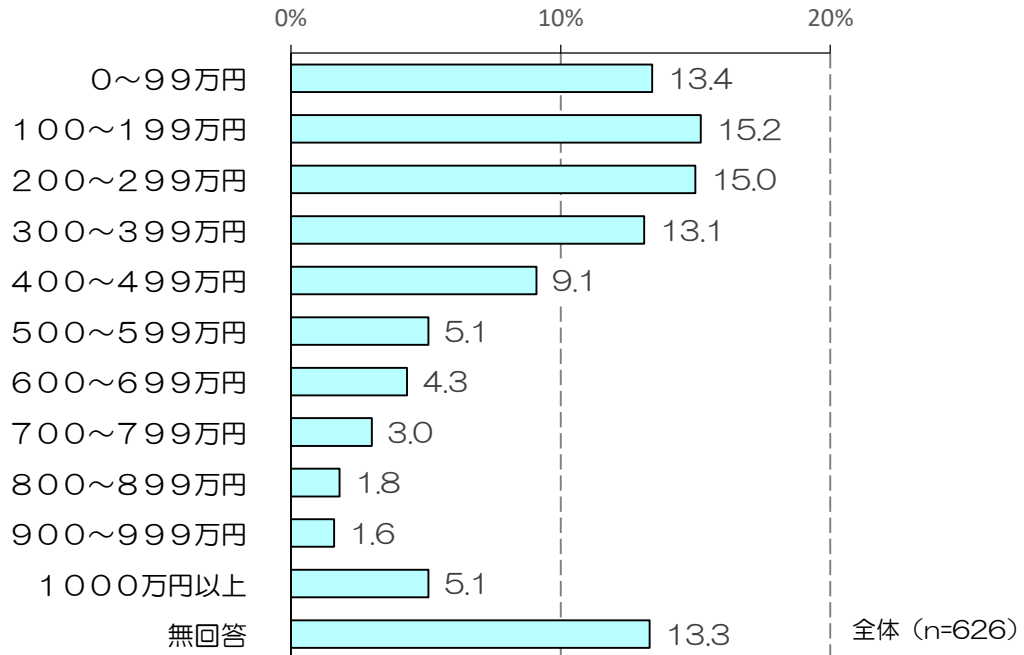


7. あなた自身について

(1) 世帯収入

「100～199万円」が15.2%で最も多く、次いで、「200～299万円」が15.0%、「0～99万円」が13.4%、「300～399万円」が13.1%となっており、399万円以下で56.7%と過半数を占める。

400～999万円までは、金額帯が上がるほど、比率は低くなっている。



(2) 生まれた国にいる家族などへの送金状況

「送っている」人は26.2%、「送っていない」人は67.6%となっている。

(3) 在留資格「特定技能」の認知度

「知っている」が33.7%、「知らない」が62.6%となっている。